

令和元年度 徳島県立池田高等学校（全日制） 学校評価 総括評価表 1

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
学ぶ意欲と自主的に学習する習慣を育て「確かな学力」を身につけた社会で自立できる人間を育成する。	① 家庭学習時間の確保と学習の習慣化	1 家庭学習時間調査週間を設け、一週間を通して生徒の学習時間を把握し、家庭学習時間が確保できるよう指導に努める。	全生徒の平均家庭学習時間 2時間以上	全生徒の平均家庭学習時間は2.4時間(前年度2.3時間)であった。1・2年生平均は2.3時間(同2.0時間)、3年生平均は2.5時間(同2.8時間)であった。本年度は家庭学習時間調査週間を年7回(3年生は年6回)設定した。調査結果を個別面談等に活用し生徒が家庭学習にしっかり取り組めるよう指導した。	B	B	B	検定取得に向けての生徒の意識が高まっているという点が評価できる。特に、来年度からの共通テスト対策として、早い時期から授業改善や対策が講じられていることも評価できる。(学校評議委員)	生徒の学習状況を把握するための資料で終わらない工夫をする。面談に資料を活用することで、生徒の学習習慣や学習意欲の改善を図り、家庭学習の時間を確保させる。また学習面のつまづきの原因を探り学習意欲を喚起する。
		2 予習・復習のための週末課題を提供し、自主的・計画的に学習させ、家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケート「出題された課題が継続向上に役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は72.2%(前年度70.2%)であった。校内実力テストや校外模試の範囲に合わせた課題を提供した。	B				
	② 基礎基本の徹底と学習意欲の喚起	1 各教科において確認テスト・小テストを行うとともに、授業理解を促進させるワークシート等を開発・提供する。	生徒アンケート「確認テスト・小テスト・ワークシートが役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は87.6%(前年度87.5%)であった。テストは合格点を決め、それに達するまで再テストを繰り返した。	A	A	(所見) 生徒側からのアンケートでは、週末課題以上に小テストや確認テスト、ワークシートが成績向上に役立ったと考えている生徒が増加しており、スムーズステップでの学習が効果的と考えられる。更に、全部活動で定期テスト前の学習時間確保が定着してきており、生徒、教師ともに定期考査前に着実に学力をつけていくという意識が高まっていることがわかる。	確認テスト・小テスト、ワークシートを活用した授業実践により、全教科・科目で確かな学力をつける必要がある。	
		2 生徒の興味・関心を高める教材の開発とともに、探究的学習や課題解決的な学習活動の展開を図り、生徒の学習意欲喚起に繋げる。	生徒アンケート「進路実現に向けて学習意欲が高まった」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は81%(前年度81%)であった。授業公開週間や各種研究授業等の取組を通して、アクティブラーニングの研修や、電子黒板等情報機器を活用した授業開発に取り組んだ。	A				
	③ 学習と部活動の両立への支援	1 部活動生徒理解懇談会を開催し、生徒の学習習慣や成績向上について教職員の共通理解を図る。	部活動生徒理解懇談会の開催回数 年1回	部活動生徒理解懇談会の開催回数は年1回(前年度年1回)であった。生徒指導課主催の生徒理解懇談会と重ねて実施した。	B	A	学習と部活動の両立をさらに支援するため、担任・部活動顧問を中心に教職員全体で生徒に対する共通理解を深める。	学習と部活動の両立をさらに支援するため、担任・部活動顧問を中心に教職員全体で生徒に対する共通理解を深める。	
		2 定期考査前に部活動の練習時間短縮や勉強会を行い、学習時間を確保して学習習慣の定着を図る。	生徒・部活動顧問アンケート「定期考査前に生徒の学習時間が確保できた」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒73%(前年度75%)、部活動顧問97%(同85%)であった。定期考査1週間前から練習時間の短縮や勉強会を行った。	A				
	④ 各種検定試験の受検奨励と対策	1 英語検定・漢字検定などの各種検定の受検を奨励し、学力の向上を図る。	英語検定・漢字検定などの各種検定の受検率 前年度比3%以上増	英検受検率は前年度比4.0%増、漢検受検率は前年度の85.9%であった。生徒の意識は高まっているが、受験料の負担が大きいことがネックとなっている。	B	B	できるだけ多くの生徒に受検を勧め、資格取得とともに学力向上の契機となるよう努める。	プレテスト・再テストなどの実施を継続し、資格としての漢字検定を意識するように指導する。	
		2 漢字テストの予習・復習プリントを提供し、漢字テスト優秀者の割合を増加させる。	全10回の漢字テストのうち、合計90点以上の生徒の割合20%以上	合計90点以上の生徒の割合は、36.7%(前年度58.2%)であった。漢字優秀賞6名と昨年度より3名減。問題集やプリントを予習・復習に活用した。	A				
	⑤ 教員の授業力向上と学習指導方法の改善	1 年2回の授業公開週間や研究授業の授業参観を通して、教員の授業力向上を図る。	教員アンケート「授業力向上に授業公開や研究授業を役立てることができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は88%(前年度85%)であった。授業公開週間を前年度と同様に1・2学期に各1回2週間ずつ設定した。	A	A	教員の授業力向上をさらに図るために授業参観は有効であるので、授業参観しやすい環境作りを引き続き努める。	学習指導方法の改善をさらに図るため、まず各教科・各学年で指導方法についての意見交換を増やすよう引き続き努める。	
		2 各教科で教科会を定期的に開催するなどして、学習指導方法の改善について検討する。	教員アンケート「学習指導方法の改善を実践することができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は94%(前年度95%)であった。定期考査・課題テスト前後を中心に、各教科・各学年で指導方法について意見交換を行った。	A				
	⑥ 地域と連携した教育の推進	1 地域の専門家を招き、地域をテーマとした探究活動を通して、地域の人材活用を図る。	地域を課題とした探究活動の実施テーマ数 5つ以上	実施テーマ数は年間で11テーマ(前年度10テーマ)であった。本年度は地域の方々の協力を得て、「観光甲子園」予選で2作品出品し、本選に進んだ。	A	A	生徒がよりよい研究活動を行えるよう、地域の人材活用をさらに活発にし、より地域に根付いた課題研究を実施する。	発表の形式を検討し、内容が分かりやすい成果発表会を実施する。	
		2 課題研究集録を発行したり、校外に向けて活動内容を公表することを通して、地域に開かれた学校づくりを推進する。	課題研究集録の発行 年間1冊 校外に向けて活動内容を公表 1グループ	地域の方への成果発表会は年2回(前年度年1回)であった。本年度も課題研究報告書を発行することができた。	A				
	⑦ 図書館の有効活用と読書活動の推進	1 館外展示や読書会を通して、多くの生徒に池高図書館と読書の魅力を伝え、図書館利用の習慣がない生徒が来館するきっかけを作る。	館外展示 年1回以上 読書会 年1回以上	図書展示17回、うち館外では8回を実施した。読書会は、図書委員による図書紹介(全HR)、集団読書(6/15HR)、ピピリオバトル[書評対戦]を実施した。	A	A	引き続き図書委員との協働や、授業・学校行事との連携に取り組み、生徒が図書と出会う多様な機会づくりに努める。	中学生の興味・関心を一層喚起できるよう、テーマ・時間配分・準備物などについて、検討を重ねる。	
		2 池高入門にてブックトークを中学生を行うことで、池高図書館と読書への興味・関心を喚起し、入学後の活発な図書館利用へと繋げる。	池高入門におけるブックトーク 年1回	ブックトーク[図書の連続紹介]を、ピピリオバトル[書評対戦]に変更して実施した。中学生がシナリオ作りに挑戦したほか、教員が実演を行った。	A				

【備考】 「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった